

第15回 JOMF 特別企画セミナー 大阪開催のご報告 (記事スタイル)



帽子を白板にかけたままなのに気づかずに進行役をする宮本

2012年07月25日、大阪商工会議所 白鳳の間において 第15回セミナーが開催された。題して『脱水症対策 (熱中症と渡航者下痢症・食中毒への備え)』。東京でのセミナータイトルとは少し変えているが、基本的には7月12日のセミナーの大阪バージョン展開だ。海外で下痢をしたりする機会は少なくなく、1か月海外に滞在した場合、渡航者下痢症に罹る人の割合は20~60%となるそうだ (5月30日東京医科大学実用セミナー)。つまり、2か月海外に滞在すれば、殆どの人が渡航者下痢症に罹るという計算になる。食中毒などによる下痢や嘔吐とともに、急速に体内の塩分やミネラル、水分が失われてしまうので、これらの病気になった場合の脱水症対策は重要だ。

今回は、株式会社 大塚製薬工場の近藤康得室長 (薬学博士) による『熱中症や下痢による脱水対策 ~経口補水液の使用について~』と、サラヤ株式会社の鎌倉直樹氏による『夏場の衛生と予防 ~発生リスクの高い熱中症と食中毒の観点から~』というテーマでお話を戴いた (講師お二人の会社は、ともに基金の会員企業)。特徴としては、①日頃飲んだことのない『生理食塩水』や『配合を間違えた自作の保水液』、『冷えた保水液とぬるいものの飲みやすさの違い』などについて、試飲タイムを設けたことと、②塩飴などの塩分補給の試食等、会員企業ならではの (差し入れ) お土産が用意されたこと、③途中からサラヤさんの新製品 (縦横30センチの超大型フェイス&ボディ クールシート 『クールリフレ』) についての意見交換会に発展したことがあげられる。

—参加者数は？

A: 19名の方に参加戴きました。東京の14名より増えました。東京より大阪の方が多いうのは初めてのことになります。男女別では女性7名、男性12名、職種別では人事・総務・安全管理等の一般参加者が18名、医療関係者が1名でした。7月3日にメンタルヘルスセミナー、7月12日に東京での脱水症対策セミナーを開催した直後なので会場調整、資料確認、などにあたふたとしてしまいました。一番事務局を悩ませたのは、参加者。そう、いつもは、大阪で実施する前に、東京で実施して、そのレポートとタイミングを合わせて開催案内を出すようにしているので、ある程度の参加者が読めたのですが、今回は、東京開催の直後の講師との反省会のなかで、『大阪は25日』と決まってしまうため、告知に要する時間が十分にとれませんでした。最終的に東京を上回るという結果に落ち着いたのですが、告知から実施まで実質2週間もなく、参加希望者が数名しか集まらず、大阪開催を延期しようかとも思ってしまった。が、株式会社JCM (今年から会員になって戴きました) さんやJCMさんのご紹介で基金にご来所された日中ビジネスサービス仙波代表などのご協力もあり、ついには仙波さんが役員をされている公益財団法人大阪産業振興機構からも在阪企業に今回のセミナーについてのご紹介を戴きました結果、上述のような「東京を超えた参加者」が実現してしまいました。同機構からもご参加いただき、今後会員ではない企業の方で会員になっていただけそうな企業にも働きかけの面でご支援戴けるような関係ができたこと、本当にうれしい限りです。



大阪恒例のV字型レイアウトを採用。講師との距離感が特徴

—近藤さんの発表内容は？

A: 内容的には前回のセミナーとまったく同じになってしまいますが、今回私が話をお聞きしているなかで、ひとつ印象に残ったことがあります。それは、動物を使っている実験が開発環境にはどうしても不可欠な為、今回のお話でも近藤さんたちの実験で使われたマウスについてのお話なのです。三つあります。一つめは、マウスが一匹当たり2000円~2500円もするという。 (何匹も使う必要があるため、色々な実験の場では失敗しないように大切に扱わないといけないそうです) 二つ目は、予算がいくらあっても無用な殺生はできない。それは動物虐待とされるために、色々な倫理面での条件をクリアしないとイケないこと。三つ目は、毎年、『お亡くなりになった実験用動物のためにそのご冥福を祈る』という行事を行っていらっしゃる (冗談ではなく、本当の話) ということを聴きました。近藤さんのお話は、7月12日とダブルなので詳しくは割愛しますが、



大学の先生のような近藤室長

今回も参加者の皆さんに試飲をして戴きました。そのうえで、難しい話を分かりやすく、そして楽しく（実際、「げっ、これは不味い！」というものも飲んでもらいましたが、今回も『大変よいリアクション』が多数あって、楽しく試飲してもらえました）。



試飲タイム風景：

- ①試飲の準備をする大塚製薬工場の川本さん
- ②生理食塩水準備完了！
- ③～⑤「マズ！」という声！
- ⑥これなら何とか！
- ⑦やはり適切にブレンドされた方がイケてるね！

また、折角の経口補水液も一気飲みをしたら思うような効果が得られない、水分を取るためには水だけでは不十分で、同時に塩分も摂取する必要があるが、OS-1では塩分だけでは飲みにくいので、糖分やミネラルなどのミネラルなどとともに飲みやすくするための酸味などをブレンドされているということも試飲をしてみて良くわかりました。生理食塩水は確かに不味いです！海で海水をガツと飲み込んでしまった時のような味がしました。

この経口補水液を海外に持ち出す場合は、液体のものより軽量且つ保存期間が長い（3年）タイプの粉末タイプがよいだろうということでした。自分で水に溶いて飲用をするのだそうです。これですと、持ち運びが簡単、場所も取らないということになり、出張者や滞在者には便利だと思われそうです。ただし、麻薬などと間違えられることもあるそうで、その対応策として大塚製薬さんでは、書類も発行してくれるそうですので、これなら安心して持ち出せるでしょう。



質疑応答も活発にできてきました。右は鎌倉室長とご質問に答える近藤室長

—鎌倉さんの発表内容は？

A: 鎌倉さんは、日頃みる鎌倉さんではなく、真面目な話題を真剣な表情で、でも同時に楽しく展開されていました:笑 実際こんな鎌倉さんを見たのは初めてです。



真剣に話を進めている鎌倉室長。でもジョークも飛び出して会場には笑いの渦も！

題目的には、前回のものと同じなのでここでは割愛しますが、特に、①体内ケア：水分・塩分・糖分補給等による『熱中症にならない体づくり』、②対外ケア：高温多湿といった外的要因から体を守り健康を維持する等による『真夏における労働安全衛生対策』、③対外ケア：身体を清潔・快適にすることで従業員のモチベーションを維持する等の『従業員が働きやすい職場づくり』を、というメッセージは心に残りました。

—最後にひとこと？

A: 今回、もともと懇親会に参加されないご予定だった方たちも、セミナーの後に、少しだけご一緒させてほしいとお申し入れがありました。セミナーの狙い通りに面白くてためになるものになったからかなと思っています。懇親会の場でも、サラヤさんとシキボウさんのメンバーを中心に、来年度の商品開発についての参加者の方からの（ブレストのような形で）意見交換会のようにりましたが、これも、JOMFのセミナーならではのことでないかと考えています。



懇親会の参加者の皆さんと祈念写真(写真は全てサラヤの竹谷さんからのご提供)

(JOMF ニュースレター編集部:宮本)